

RZ50

1981年 / 市販車

1980年代は、学科試験のみで取得できる原付免許が高校生の間で憧れの的となっていた。

然しながら新車でのバイク購入は高校生にとってハードルが高く、1970年代の中古車に人気が集まっていたが、ヤマハ車では1974年発売のRD50が1977年にモデルチェンジとなり、当時トップクラスの6.3PSを誇っていた。

その後、フルモデルチェンジとして1981年発売となったRZ50は、RZ250/350と同様に2ストロークマシンの魅力を追求した50cc スーパースポーツ。軽量・高剛性のダブルクレードルフレームに、YEIS（ヤマハ・エナジー・インダクション・システム）と6速クロスミッションを採用した水冷・2ストローク・単気筒49cc 最高出力7.2PS/9,000r/min エンジンを搭載。足まわりには、モノクロスサスペンション、前後18インチキャストホイール、フロントディスクブレーキなどを装備し、当時クラス最高のパフォーマンスを発揮した。

1981年発売のXJ750Aに見られる、パーツを連続させたシルエットで表現するインテグレーションという手法から、当時のデザイントレンドが垣間見える。

1974 - RD50



1981 - XJ750A

